

# みどりのこえ

秋号  
2014

長野県環境保全研究所

平成26年(2014年)9月30日発行

●飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷 2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929

●安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村 1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415

URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/index.html> E-mail: [kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp](mailto:kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp)



アカマツの枝に止まっているライチョウ(左:1988年3月17日撮影)とライチョウが発見された松林(右:1988年3月18日撮影)

## 思いがけないライチョウの行動

文 宮野 典夫

1988年3月17日、山岳博物館に電話がかかってきました。大町市内の田園近くの松林にライチョウらしい鳥がいるというもので、駆けつけてみると、標高780m、高瀬川脇のアカマツの枝にライチョウがいました。地上に降りることなく、休息をしながら松の枝から枝へと移動し、翌日には姿が見えなくなりました。

このほかにも大町市内でライチョウが発見された記録が山岳博物館に残されていました。1966年11月3日、標高825mでネコがライチョウを捕獲したと記されています。解剖の結果、胃からシロツメクサの葉が検出され、里に下りてから採食していたことが分かりました。

高山の稜線や山頂が雪で覆われるこの時期は、オシラビソやダケカンバ等の疎林まで移動し、冬を越しているのですが、どうして標高の低い場所まで下りてしまったのでしょうか。

北アルプスに生息するライチョウは土地に対する執着性が強く、大きな移動はないといわれています。また、里に下りてきた2羽は両方ともオスです。一般的に動物界では拡散に寄与するのはメスといわれています。2009年に石川県の白山で70年ぶりに発見されたライチョウはメスでした。このライチョウは北アルプス方面から移動したのではないかとされています。

今まで考えられていた生態からかけ離れたこれらの行動は、ライチョウにとってどんな意味があったのでしょうか。

温暖化の影響は極地や高山に出やすく、ライチョウにとって生活しにくい時代がやってくるかもしれませんが、思いがけない行動がライチョウという種を救うひとつになってもらいたいものです。

(みやの のりお/市立大町山岳博物館館長)

### Contents

【巻頭言】 思いがけないライチョウの行動	1	【夏の施設公開 2014 フォトレポート】	8
【特集】 平成26年度 山と自然のサイエンスカフェ@信州から		【報告①】 自然ふれあい講座 「セミのぬげがらを探せ！」	9
新企画「山と自然のサイエンスカフェ@信州」始まる	2	【報告②】 市立大町山岳博物館と連携・協力に関する協定を締結しました	10
第1回「日本アルプスとヨーロッパアルプス」	3-4	【報告③】 長野県版レッドリスト植物編が刊行になりました	10
第2回「ライチョウの暮らしとその未来」	5	【新スタッフから】	11
第3回「信州の森とお花畑の多様性」	6	【ご案内】平成26年度のこれからの催し	12
第4回「植物からみた南アルプスの魅力」	7		